

小麦跡における大豆の極晩播不耕起狭畦播種栽培

福島県農業総合センター 浜地域研究所

1 部門名

普通畑作物—大豆—作型・栽培型、浜通り平坦

2 担当者

江上宗信・濱名健雄

3 要旨

南相馬市原町区高地区で実施されている、小麦跡の大豆極晩播不耕起狭畦播種栽培においては、小麦収穫後速やかに播種作業が実施でき、収量の確保が可能である。

- (1) 排水良好な転換畑における不耕起狭畦播種法は、降雨翌日であっても播種作業が可能であり、小麦の収穫後、速やかに播種作業が実施できる(図2、表1)。
- (2) 播種時期が6月5半旬～7月1半旬の場合、播種量を0.7～0.8kg/aとすることで30kg/aの収量が期待できる(表1)。
- (3) ただし、排水性は、通常の耕起栽培と同等であるため、排水対策の徹底が必要である。また、麦稈はコンバイン収穫時に細断する。
- (4) 狭畦栽培では、大豆生育期間中の茎葉処理剤の使用が困難なため、難防除雑草の発生には注意が必要である。



図1 播種作業

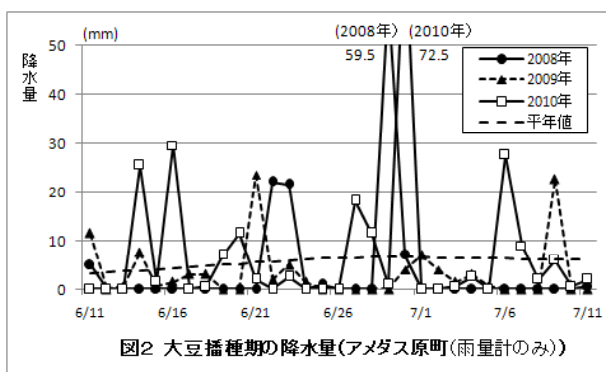


表1 高地区における大豆極晩播不耕起狭畦播種栽培の調査結果

年度	区名	播種量 (kg/a)	出芽本数 (本/m ²)	主茎長 (cm)	総節数 (節/本)	穂実莢数 (莢/本)	全重 (kg/a)	粗子実重 (kg/a)	子実重 (kg/a)	百粒重 (g)
2008年	6/25播種	0.9	26.1	101.4	-	17.2	65.6	31.3	31.1	39.8
	7/1播種	0.9	21.7	90.3 (89)	-	16.2 (94)	65.6 (100)	29.8 (95)	29.7 (96)	42.4 (107)
	晩播区	0.7	24.4	87.3 (86)	-	31.0 (180)	67.8 (103)	34.7 (111)	34.5 (111)	41.4 (104)
2009年	6/25播種	0.7	15.7	80.4	36.9	55.9	75.1	45.9	44.7	36.7
	6/26播種	0.7	15.8	70.3 (87)	31.3 (85)	45.0 (81)	61.7 (82)	38.8 (85)	37.2 (83)	34.9 (95)
	7/3播種	0.7	22.7	68.9 (86)	20.7 (56)	27.7 (50)	62.3 (83)	37.2 (81)	34.4 (77)	35.5 (97)
	7/5播種	0.9	21.5	77.2 (96)	20.9 (57)	25.9 (46)	82.1 (109)	50.8 (111)	48.9 (109)	37.2 (101)
	7/6播種	0.9	21.3	80.7 (100)	22.9 (62)	29.3 (52)	75.5 (101)	45.9 (100)	43.8 (98)	37.2 (101)
2010年	6/23播種	0.8	24.9	50.7 (100)	34.5 (100)	56.2 (100)	78.1	48.1	45.6	33.8
	6/28播種	0.8	19.6	45.9 (91)	32.6 (95)	53.5 (95)	67.1 (86)	41.1 (85)	38.7 (85)	34.2 (101)
	7/1播種	0.8	15.5	47.7 (94)	36.2 (105)	63.6 (113)	74.9 (96)	47.1 (98)	45.1 (99)	35.2 (104)
	7/2播種	0.8	19.6	53.9 (106)	37.6 (109)	63.6 (113)	72.5 (93)	44.1 (92)	40.1 (88)	34.2 (101)
	平畦区	0.5	12.2	58.2 (115)	36.1 (105)	51.2 (91)	73.0 (94)	38.0 (79)	28.6 (63)	36.0 (106)

※ 品種名はタチナガハ。子実重は坪刈りによる。
 2008年の晩播区は原町区泉地区の不耕起狭畦播種で、6/20播種。
 2010年の平畦区は小高区下浦地区の通常の耕起播種で6/2播種。
 ()内は、2008、2009年は6/25播種、2010年は6/23播種を100とした比率。
 子実重及び百粒重は、節目6.7mm以上。
 2010年は、開花期以降に高温・乾燥で推移したため、ほ場に入水した。

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成22年度センター試験成績概要